社会・資料読み取り問題 解答解説

正答・資料中の根拠・判断理由・記述条件｜一律の部分点なし

対象教科	社会
対象単元	地理・歴史・公民（資料読み取り）
問題構成	基礎5問・標準5問・本番形式3問
問題数	13問
目標時間	50分
難易度	基礎〜標準
公式確認日	2026-07-29

採点観点の扱い

東京都教育委員会の採点のポイントで確認できる、指定された内容を資料に即して適切に書くという観点だけを用いる。各学校が作成する部分点の基準や点数を本教材で一律に設定しない。記述は模範解答と同一表現でなくても、指定された資料上の根拠と条件を満たす適切な表現を認める。

問題 1

区分：基礎

分野：地理

資料1 青波県4地域の農業産出額（表）

単位：億円｜期間：2025年｜対象地域：架空の青波県｜教材用の架空資料

地域	農業産出額（億円）
北部	52
東部	84
南部	67
西部	73

農業産出額が最も大きい地域と、最も小さい地域との差を答えなさい。

正答：東部、32億円

資料中の根拠

東部84億円が最大、北部52億円が最小である。

都立入試ナビ

読み取る数値・語句・位置・期間

2025年、青波県、農業産出額、単位は億円、84と52。

選択肢の判断理由

最大値と最小値の地域を特定し、その差を求めるため。

必要な社会科知識

農業産出額は、地域の農業生産を金額で表した指標である。

詳しい解説

表の数値を比較し、84－52＝32とする。地域名と単位を両方書く。

間違いやすい点

最大の地域だけを答え、差を求めないこと。

誤答しやすい理由

73を最大と見誤るのは、列を途中までしか比べていないためである。

記述問題の模範解答

東部で、北部との差は32億円である。

記述条件

地域名と差を億円で書く。

別の適切な表現

農業産出額が最大なのは東部で、最小の北部より32億円多い。

見直しポイント

最大・最小の行と単位を再確認し、52＋32＝84で検算する。

採点観点

最大の地域と最小との差が資料に即して適切に示されていること。

問題 2

区分：基礎

分野：地理

資料1 星川市の交通手段別通学者数（棒グラフ）

単位：百人｜期間：2020年・2025年｜対象地域：架空の星川市｜教材用の架空資料

都立入試ナビ

交通手段	2020年	2025年	白黒棒表示（2025年、■＝3百人）
鉄道	39	48	■■■■■■■■■■■■■■■
バス	44	35	■■■■■■■■■■■
自転車	31	34	■■■■■■■■■■
徒歩	26	28	■■■■■■■■

2020年から2025年に通学者数が減少した交通手段と、その減少量を答えなさい。

正答：バス、9百人

資料中の根拠

バスは44百人から35百人へ減少している。

読み取る数値・語句・位置・期間

2020年と2025年、星川市、単位は百人、バス44と35。

選択肢の判断理由

他の交通手段は全て増加しており、減少はバスだけである。

必要な社会科知識

棒グラフでは軸・単位を確認し、異なる年の棒を同じ項目で比較する。

詳しい解説

バスの減少量は44－35＝9百人である。実人数に直すと900人だが、設問の単位で答える。

間違いやすい点

35人と答え、百人単位を見落とすこと。

誤答しやすい理由

鉄道を選ぶのは、増加と減少の向きを逆に読んだためである。

記述問題の模範解答

バスで、9百人減少した。

記述条件

交通手段と減少量を資料の単位で書く。

別の適切な表現

減少したのはバスで、減少量は900人（9百人）である。

都立入試ナビ

見直しポイント

2020年の値から2025年の値を引き、35＋9＝44を確かめる。

採点観点

減少した交通手段と減少量が適切に示されていること。

問題 3

区分：基礎

分野：歴史

資料1 政治の中心と制度の変化（年表）

単位：西暦｜期間：710年～1338年｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

年	出来事
710	平城京に都が置かれる
794	平安京に都が移される
1185	源頼朝が全国に守護・地頭を置く
1338	足利尊氏が征夷大将軍となる

平安京への遷都の後、足利尊氏が征夷大将軍となる前に起こった出来事を答えなさい。

選択肢

・平城京に都が置かれる

・源頼朝が全国に守護・地頭を置く

・足利尊氏が征夷大将軍となる

・平安京に都が移される

正答：源頼朝が全国に守護・地頭を置く

資料中の根拠

1185年は794年より後、1338年より前である。

読み取る数値・語句・位置・期間

794年、1185年、1338年と各出来事。

選択肢の判断理由

指定された二つの出来事の間に位置するのは1185年の出来事だけである。

必要な社会科知識

鎌倉幕府の成立過程では、源頼朝が守護・地頭を置いて支配を進めた。

都立入試ナビ

詳しい解説

年表を古い順に追い、794＜1185＜1338を確認する。

間違いやすい点

問題文の『後』『前』を逆に読むこと。

誤答しやすい理由

平城京は794年より前、足利尊氏は終点そのもので条件に合わない。

記述問題の模範解答

源頼朝が全国に守護・地頭を置いた。

記述条件

年表の794年と1338年の間の出来事を書く。

別の適切な表現

全国に守護と地頭が置かれた。

見直しポイント

選んだ1185年が二つの年の間にあるか不等号で確かめる。

採点観点

指定された期間内の出来事が適切に示されていること。

問題 4

区分：基礎

分野：公民

資料1 若葉市一般会計歳出の構成（円グラフ）

単位：％｜期間：2026年度当初予算｜対象地域：架空の若葉市｜教材用の架空資料

項目	構成比	白黒区分
福祉	38	////
教育	27	....
土木	21	xxxx
その他	14	----

合計100％。色ではなく斜線・点・交差線・横線で区別する。

構成比が最も大きい項目を答え、四項目の合計が100％になることを確かめなさい。

正答：福祉、38＋27＋21＋14＝100％

都立入試ナビ

資料中の根拠

福祉38%が最大で、38＋27＋21＋14＝100である。

読み取る数値・語句・位置・期間

2026年度、若葉市、単位%、38・27・21・14。

選択肢の判断理由

円グラフの全体は100%であり、最大の区分は38%である。

必要な社会科知識

地方公共団体の歳出は住民生活に関わる福祉・教育・土木などに使われる。

詳しい解説

構成比は全体に占める割合であり、実際の金額そのものではない。

間違いやすい点

38を38億円と読み替えること。

誤答しやすい理由

教育を選ぶのは、項目名の重要さだけで判断し数値を比較していないためである。

記述問題の模範解答

最も大きいのは福祉で、合計は38＋27＋21＋14＝100%である。

記述条件

項目名、計算式、%を含める。

別の適切な表現

福祉が38%で最大であり、全区分の合計は100%になる。

見直しポイント

円全体が100%であることと、単位が%であることを確認する。

採点観点

最大項目と構成比の合計が資料に即して適切に示されていること。

問題 5

区分：基礎

分野：地理

資料1 潮見地域の交通と施設（略地図）

単位：1区画＝1km｜期間：2026年｜対象地域：架空の潮見地域｜教材用の架空資料

北↑

都立入試ナビ

港P ―1km― 倉庫W ―1km― 工場F

｜

2km

｜

鉄道駅S

工場Fから港Pまで2km、鉄道駅Sまで3km。

工場Fから港Pまでと鉄道駅Sまででは、どちらが近く、何km近いですか。

正答：港P、1km近い

資料中の根拠

工場Fから港Pまで2km、鉄道駅Sまで3kmと示されている。

読み取る数値・語句・位置・期間

2026年、潮見地域、1区画1km、工場・港・駅の位置と距離。

選択肢の判断理由

2kmの港の方が3kmの駅より近い。

必要な社会科知識

略地図では方位・縮尺・記号・位置関係を確認する。

詳しい解説

距離の小さい方を選び、3−2＝1kmとする。

間違いやすい点

線の見た目だけで判断し、1区画の単位を確認しないこと。

誤答しやすい理由

駅を選ぶのは、縦の線だけを数え、工場から倉庫までを含めていないためである。

記述問題の模範解答

港Pの方が1km近い。

記述条件

施設名と距離差をkmで書く。

別の適切な表現

工場Fからは鉄道駅Sより港Pが1km近い。

見直しポイント

経路ごとの区画数を数え、単位を掛け直す。

都立入試ナビ

採点観点

近い施設と距離差が略地図に即して適切に示されていること。

問題 6

区分：標準

分野：地理

資料1 二地域の気候（表）

単位：年平均気温℃・年降水量mm｜期間：2016年～2025年の平均｜対象地域：架空のA地域・B地域｜教材用の架空資料

地域	年平均気温（℃）	年降水量（mm）
A	17.8	1680
B	12.6	620

資料2 作物の栽培条件（文章資料）

単位：なし｜期間：現在｜対象地域：A地域・B地域｜教材用の架空資料

作物Xは温暖で降水量の多い地域に適する。

作物Yは冷涼で比較的乾燥した地域に適する。

作物Xに適する地域を選び、二地域の年降水量の差も答えなさい。

選択肢

・A地域

・B地域

正答：A地域、1060mm

資料中の根拠

AはBより気温が高く、年降水量も多い。降水量差は1680－620＝1060mm。

読み取る数値・語句・位置・期間

2016～2025年平均、A・B地域、℃とmm、17.8・12.6・1680・620。

選択肢の判断理由

資料2の『温暖で降水量が多い』条件を両方満たすのはA地域である。

必要な社会科知識

気候と農業の関係は、気温と降水量の両方から考える。

詳しい解説

一つの数値だけでなく、文章の二条件と表の二列を対応させる。

都立入試ナビ

間違いやすい点

気温だけを見て、降水量を比較しないこと。

誤答しやすい理由

Bを選ぶのは、作物Yの条件と取り違えたためである。

記述問題の模範解答

作物XにはA地域が適し、年降水量の差は1060mmである。

記述条件

地域名と降水量差をmmで書く。

別の適切な表現

温暖で多雨なA地域が適し、B地域より1060mm多い。

見直しポイント

文章資料の条件語と、表の列見出しを一対一で対応させる。

採点観点

栽培条件と二つの気候要素を関連付け、差が適切に示されていること。

問題 7

区分：標準

分野：公民

資料1 ひかり市の公共図書館利用率の推移（折れ線グラフ）

単位：％｜期間：2022年～2025年｜対象地域：架空のひかり市｜教材用の架空資料

年	利用率	白黒線表示
2022	26	●
2023	29	●—●
2024	32	●—●—●
2025	35	●—●—●—●

各年の点●を実線——で結んだ折れ線グラフ。

資料2 ひかり市の2025年人口（表）

単位：人｜期間：2025年10月1日｜対象地域：架空のひかり市｜教材用の架空資料

人口	図書館利用率
120000	35%

都立入試ナビ

2025年の図書館利用者数を、人口に利用率を掛けて求めなさい。

正答：42000人

資料中の根拠

人口120000人、利用率35%である。

読み取る数値・語句・位置・期間

2025年、ひかり市、人口120000人、利用率35%。

選択肢の判断理由

割合ではなく実数を求めるため、全体の人口に利用率を掛ける。

必要な社会科知識

地方公共団体は図書館など住民向けの公共サービスを提供する。

詳しい解説

120000×35÷100＝42000人。35%を35人と扱わない。

間違いやすい点

120000－35と計算すること。

誤答しやすい理由

35人とする誤答は、割合と実数を区別していないためである。

記述問題の模範解答

2025年の利用者数は120000×0.35＝42000人である。

記述条件

計算式と人数を示す。

別の適切な表現

12万人の35%なので4万2000人である。

見直しポイント

利用者数が人口を超えていないか、35%が約3分の1であることから概算する。

採点観点

人口と利用率を用いて実数が適切に求められていること。

問題 8

区分：標準

分野：歴史

都立入試ナビ

資料1 明治政府の制度整備（年表）

単位：西暦｜期間：1868年～1889年｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

年	出来事
1868	五箇条の御誓文
1871	廃藩置県
1872	学制の発布
1889	大日本帝国憲法の発布

資料2 中央集権化についての説明（文章資料）

単位：なし｜期間：明治時代初期｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

政府は、藩を廃止して府県を置き、中央から地方官を派遣する仕組みを整えた。

資料2に対応する出来事を資料1から選び、その出来事から憲法発布まで何年あるか答えなさい。

選択肢

・五箇条の御誓文

・廃藩置県

・学制の発布

・大日本帝国憲法の発布

正答：廃藩置県、18年

資料中の根拠

資料2の説明は1871年の廃藩置県に対応し、憲法発布は1889年である。

読み取る数値・語句・位置・期間

1871年、1889年、『藩を廃止して府県を置く』。

選択肢の判断理由

文章の語句が廃藩置県の内容と一致する。

必要な社会科知識

廃藩置県は中央集権国家を整える改革の一つである。

詳しい解説

文章資料を歴史用語に置き換え、年表の年を使って18年と求める。

間違いやすい点

学制を選び、制度一般という語だけで判断すること。

都立入試ナビ

誤答しやすい理由

五箇条の御誓文は政治方針、学制は教育制度であり、藩の廃止ではない。

記述問題の模範解答

廃藩置県で、憲法発布までは18年である。

記述条件

出来事名と年数を書く。

別の適切な表現

1871年の廃藩置県から1889年まで18年間である。

見直しポイント

文章の重要語句と年表の出来事を対応させ、引く順序を確かめる。

採点観点

文章資料に対応する出来事と期間が適切に示されていること。

問題 9

区分：標準

分野：公民

資料1 緑丘市の二つの歳出項目（表）

単位：億円｜期間：2021年度・2025年度｜対象地域：架空の緑丘市｜教材用の架空資料

項目	2021年度	2025年度
子育て支援	120	165
道路整備	80	100

資料2 歳出の増加率（棒グラフ）

単位：％｜期間：2021年度から2025年度｜対象地域：架空の緑丘市｜教材用の架空資料

項目	増加率	白黒棒表示（■＝5%）
子育て支援	37.5	■■■■■■■□
道路整備	25.0	■■■■■

□は2.5%を表す。

子育て支援費の増加量と増加率をそれぞれ求め、両者の違いが分かるように答えなさい。

正答：増加量45億円、増加率37.5%

都立入試ナビ

資料中の根拠

子育て支援費は120億円から165億円へ増えている。

読み取る数値・語句・位置・期間

2021年度120億円、2025年度165億円、増加率の単位%。

選択肢の判断理由

増加量は差、増加率は基準年に対する差の割合である。

必要な社会科知識

地方財政の変化は金額と割合の両方で比較すると規模と伸びを区別できる。

詳しい解説

165－120＝45億円、45÷120×100＝37.5%。億円と%は別の量である。

間違いやすい点

45をそのまま45%とすること。

誤答しやすい理由

165÷120×100＝137.5%は2025年度額が2021年度額の何%かであり、増加率そのものではない。

記述問題の模範解答

増加量は45億円、増加率は37.5%である。

記述条件

増加量に億円、増加率に%を付け、両方を書く。

別の適切な表現

45億円増え、2021年度を基準にすると37.5%増加した。

見直しポイント

増加率37.5%を120億円に掛けると45億円になるか確かめる。

採点観点

増加量と増加率が単位を区別して適切に示されていること。

問題 10

区分：標準

分野：地理

資料1 海風国から日本への輸出（表）

単位：億ドル｜期間：2015年・2025年｜対象地域：架空の海風国｜教材用の架空資料

都立入試ナビ

品目	2015年	2025年
農産物	60	72
機械	40	96
衣類	55	48

資料2 海風国の工業就業者割合（折れ線グラフ）

単位：％｜期間：2015年～2025年｜対象地域：架空の海風国｜教材用の架空資料

年	工業就業者割合	白黒線表示
2015	22	●
2020	28	●――
2025	34	●――●――

海風国の産業の変化を、資料1と資料2の両方を根拠に40字以内で説明しなさい。

正答：機械輸出が56億ドル増え、工業就業者割合も12ポイント上昇した。

資料中の根拠

機械輸出は40から96億ドルへ、工業就業者割合は22%から34%へ増えている。

読み取る数値・語句・位置・期間

2015年・2025年、海風国、億ドルと%、機械40・96、工業22・34。

選択肢の判断理由

輸出品の変化と就業構造の変化がともに工業化の進行を示す。

必要な社会科知識

工業化が進むと、工業製品の生産・輸出や工業部門の就業が増える場合がある。

詳しい解説

二資料から一つずつ具体的な変化を取り出し、単位を混同せずに結ぶ。

間違いやすい点

機械輸出の2025年値96億ドルを増加量とすること。

誤答しやすい理由

衣類の減少だけを書くと、工業就業者割合との関連が説明できない。

記述問題の模範解答

機械輸出が56億ドル増え、工業就業者割合も12ポイント上昇した。

都立入試ナビ

記述条件

40字以内。資料1と資料2の根拠を一つずつ含める。億ドルとポイントを区別する。

別の適切な表現

工業就業者の割合が高まり、機械の輸出額も大きく増えた。

見直しポイント

二資料を使ったか、増加量と最終値を取り違えていないか、40字以内かを確認する。

採点観点

二つの資料の変化を関連付け、産業の変化が適切に表現されていること。

問題 11

区分：本番形式

分野：地理・歴史

資料1 朝日地域の位置関係（略地図）

単位：1区画＝10km｜期間：2025年｜対象地域：架空の朝日地域｜教材用の架空資料

北↑ 内陸都市A ― 鉄道 ― 港湾都市B

｜ ｜

農業地域C 工業地域D

BとDは高速道路でも結ばれている。

資料2 工業地域Dの出荷額構成（表）

単位：%｜期間：2025年｜対象地域：架空の工業地域D｜教材用の架空資料

業種	割合
輸送用機械	72
食品	18
その他	10

資料3 朝日地域の交通整備（年表）

単位：西暦｜期間：1965年～2015年｜対象地域：架空の朝日地域｜教材用の架空資料

年	出来事
1965	港湾都市Bの港を拡張
1988	BとDを結ぶ高速道路が開通
2015	港の自動車輸出設備を増設

都立入試ナビ

工業地域Dで輸送用機械工業が発達した理由を、資料1～3から二つの根拠を使い、50字以内で説明しなさい。

正答：港と高速道路で結ばれ、自動車輸出設備も整備され、製品を運びやすいから。

資料中の根拠

輸送用機械72%、DはBと高速道路で結ばれ、Bの港には自動車輸出設備がある。

読み取る数値・語句・位置・期間

2025年、朝日地域、割合%、DとBの位置、1988年・2015年の交通整備。

選択肢の判断理由

陸上輸送と港湾輸出の両条件が輸送用機械製品の搬出に適する。

必要な社会科知識

工業立地は原料・市場・労働力・交通などの条件と関係する。

詳しい解説

業種の割合を確認した上で、略地図の交通条件と年表の設備整備を因果関係で結ぶ。

間違いやすい点

72%だけを書き、発達した理由を説明しないこと。

誤答しやすい理由

農業地域Cを根拠にするのは、輸送用機械の輸送条件と直接結び付かないためである。

記述問題の模範解答

港と高速道路で結ばれ、自動車輸出設備も整備され、製品を運びやすいから。

記述条件

50字以内。資料1の交通条件と資料3の設備整備を含め、理由として書く。

別の適切な表現

高速道路で港へ運べ、港の自動車輸出設備も利用できるため。

見直しポイント

二つの資料上の根拠があり、『～から』『～ため』で理由になっているか確認する。

採点観点

港・高速道路の接続と輸出設備の整備を関連付け、発達理由が適切に表現されていること。

問題 12

区分：本番形式

分野：歴史・公民

都立入試ナビ

資料1 選挙制度の変化（年表）

単位：西暦｜期間：1925年～2016年｜対象地域：日本を参考にした架空整理｜教材用の架空資料

年	制度の変化
1925	一定年齢以上の全ての男子に選挙権
1945	女性にも選挙権
2016	選挙権年齢を18歳以上に引下げ

資料2 若年層の投票率（折れ線グラフ）

単位：％｜期間：架空の第1回～第3回市議会議員選挙｜対象地域：架空の青空市｜教材用の架空資料

選挙	投票率	白黒線表示
第1回	52	●
第2回	59	●—●
第3回	68	●—●—●

資料3 青空市の取組（文章資料）

単位：なし｜期間：第1回選挙後～第3回選挙前｜対象地域：架空の青空市｜教材用の架空資料

市は若者向け政策討論会を開き、候補者情報を比較できる資料を公共施設とウェブで提供した。

選挙権の拡大と青空市の取組を踏まえ、第1回から第3回の投票率の変化を45字以内で説明しなさい。

正答：参加できる人が広がる中、情報提供などの取組後、投票率は16ポイント上昇した。

資料中の根拠

投票率は52%から68%へ16ポイント上昇し、市は討論会と候補者情報の提供を行った。

読み取る数値・語句・位置・期間

1925・1945・2016年、第1回52%、第3回68%、青空市の取組。

選択肢の判断理由

制度上の参加範囲の拡大と、情報を得やすくする地域の取組を分けて整理できる。

必要な社会科知識

普通選挙の拡大は国民の政治参加の範囲を広げ、選挙では主権者が代表者を選ぶ。

詳しい解説

制度の歴史的変化と、架空市の具体的取組、グラフの16ポイント上昇を一文にする。

間違いやすい点

52%から68%への変化を16%増とだけ書き、ポイントと率を混同すること。

都立入試ナビ

誤答しやすい理由

市の取組だけで全ての変化が起きたと断定するのは、資料から因果を証明できないためである。

記述問題の模範解答

参加できる人が広がる中、情報提供などの取組後、投票率は16ポイント上昇した。

記述条件

45字以内。制度の参加範囲、市の取組、16ポイント上昇を含め、因果を断定しすぎない。

別の適切な表現

選挙権拡大の流れの中で、市の情報提供後に若年層の投票率が16ポイント高まった。

見直しポイント

増加量をポイントで書き、資料から言えない強い因果表現を避けたか確認する。

採点観点

選挙権拡大、市の取組、投票率変化を資料に即して適切に関連付けていること。

問題 13

区分：本番形式

分野：地理・歴史・公民

資料1 桜野市の年齢別人口（表）

単位：人｜期間：2025年｜対象地域：架空の桜野市｜教材用の架空資料

年齢区分	人口
0〜14歳	28000
15〜64歳	86000
65歳以上	42000

資料2 路線バス停留所別の1日利用者（棒グラフ）

単位：人/日｜期間：2025年10月の平日平均｜対象地域：架空の桜野市｜教材用の架空資料

停留所	利用者	白黒棒表示（■＝100人）
駅前	1800	■■■■■■■■■■■■■■■■■■
市役所前	900	■■■■■■■■■
病院前	1500	■■■■■■■■■■■■■■■
工業団地前	700	■■■■■■■

都立入試ナビ

資料3 市議会の公共交通検討会（会話文）

単位：なし｜期間：2026年度計画の検討時｜対象地域：架空の桜野市｜教材用の架空資料

委員A：高齢者が通院しやすい交通を優先したい。

委員B：利用者数と年齢別人口の両方を根拠に路線を考えよう。

委員C：限られた予算なので、既存路線の増便から検討したい。

資料1〜3を根拠に、市が優先して検討すべき取組を55字以内で提案しなさい。

正答：65歳以上が4万2000人おり病院前利用も多いため、病院方面の既存バス増便を検討する。

資料中の根拠

65歳以上42000人、病院前1500人/日、会話に通院支援と既存路線増便が示されている。

読み取る数値・語句・位置・期間

2025年、桜野市、人・人/日、65歳以上42000、0〜14歳28000、病院前1500、会話の条件。

選択肢の判断理由

高齢者人口は年少人口より14000人多く、病院前の利用も多いため、会話の目的と予算条件に合う。

必要な社会科知識

地方自治では、住民の需要と限られた財源を踏まえて公共サービスを検討する。

詳しい解説

人口構成、停留所利用、会話の政策条件から一つずつ根拠を取り出し、実行案に結び付ける。

間違いやすい点

利用者が最も多い駅前だけを見て、通院支援という目的を無視すること。

誤答しやすい理由

新路線建設を断定する案は、委員Cの既存路線から検討するという条件に合わない。

記述問題の模範解答

65歳以上が4万2000人おり病院前利用も多いため、病院方面の既存バス増便を検討する。

記述条件

55字以内。資料1の人口、資料2の利用、資料3の通院または既存路線条件を含め、取組を提案する。

別の適切な表現

高齢者人口と病院前利用が多いので、既存の病院方面バスを優先して増便する。

見直しポイント

三資料を全て使ったか、提案と根拠がつながるか、55字以内かを確認する。

都立入試ナビ

採点観点

人口・利用者・会話の条件を関連付け、具体的な取組が適切に提案されていること。

部分点について

東京都教育委員会の採点のポイントは、記述で必要な内容を観点として示し、各学校が部分点の基準と点数を定めるとしています。本教材は学習上の観点だけを示し、一律の部分点・減点数は設定しません。模範解答と同じ表現でなくても、指定された資料上の根拠と条件を満たす表現は適切な解答になり得ます。

総合見直しと復習

・資料のタイトル・単位・期間・地域を確認した。

・割合と実数、増加量と増加率を区別した。

・グラフの目盛りと元データを照合した。

・年表を古い順に読み、知識と矛盾しないか確認した。

・選択肢の全てを資料の根拠で確かめた。

・記述に指定された資料・数値・因果関係を含めた。

復習方法

・誤答した問題は、最初に見落とした資料情報を一つ記録する。

・翌日に資料だけを見て、根拠を声に出してから解き直す。

・割合と実数、増加量と増加率の類題を一問ずつ自作する。

・記述は模範解答を写す前に、同じ根拠を使った別表現を作る。

公式情報確認日：2026-07-29

都立入試ナビ